

苦しい、苦しい、我らの心を救え。我らを救え。アルバ - ト、お前にはその力があるのだろう。我らが苦しんでいるのをお前は知っているではないか。何で黙っているんだ。何とか言え。心を見ろだと、心を見ても苦しいものは苦しい。何故なんだ。我らにはお前が眩しくて眩しくてたまらん。あれだけ宇宙を欲しいままに操ってきた、我らのあの勢いはどこへ行ったんだ。何で我らのパワー - がお前には通じない。お前に向かっていくらパワー - を出してもみんなみんなお前の中に吸い取られてしまう。我らはパワー - を誇ってきた。どんなものにも屈しない。すべてを牛耳っていくパワー - を我らはこの手の中に入れたんだ。だから我らの天下だと思ってきた。どんなこともこの手の中で簡単に丸めてきたんだ。どんなやつでも我らには平伏した。それほどのパワー - 、エネルギー - を我らは出して出してこの宇宙を牛耳ってきたはずだ。しかししかしあいつは心を見ろと言った。我らには心があったのか。そんなものとおっくの昔に捨ててきたように思う。我らの心は、心はああ、我らは苦しかった、何故これほどパワー - を出しすべてを手中に収めてきても我らの心には、安らぎがなかったのか。常に常に周りを威嚇しいつもいつも心はざわめいていた。お前アルバ - トは宇宙を支配する思いは全くないのか。お前の宇宙には何がある。何があるんだ。教えてくれ。我らが宇宙だと思ってきた宇宙はこんなに苦しい宇宙だったのか。こんなに狭い宇宙だったのか。我らはそんな狭い中で我らの仲間

達がお互い傷つけあい殺しあってきたのか。敵だと思
ってきた。みんなみんな仲間だと言うのか。我らは仲
間だったとあいつは言った。みんなみんな仲間だと言
った。アルバ - ト、何ともいえない思いを感じ戸惑っ
ている。我らの心は今大きく大きくうろたえている。
アルバ - トの出現で我らの心がひっくり返しそうな
気がする。我らの帰るところがあったのか、遠くに捨
ててきた懐かしさをアルバ - トに感じている。もっと
もっと伝えてくれ。もっともっと我らに伝えてくれ。
アルバ - トの宇宙、我らもお前達とともに心を見てい
こうと今思っています。